

美術部・情報調整室報（平成十二年度）

美術部・情報調整室異動

平成十三年三月三十一日付で情報資料部長米倉迪夫は、退職した。

平成十三年四月一日付の独立行政法人への改変にともない、美術部は美術部日本東洋美術研究室、黒田近代現代美術研究室、広領域研究室の三室構成となり、情報資料部は情報調整官ならびに情報調整室となった。

美術部第一研究室長中野照男は、美術部長に昇任した。

美術部主任研究官岡田健は、国際文化財保存修復協力センター国際情報研究室長に昇任した。

美術部第二研究室長田中淳は、黒田近代現代美術研究室長に配置換えとなった。

美術部第二研究室員塩谷純は、情報調整室員に配置換えになった。

情報資料部文献史料研究室長鈴木廣之は、美術部日本東洋美術研究室長に配置換えとなった。

情報資料部写真資料研究室長島尾新は、美術部広領域研究室長に配置換えとなった。

情報資料部主任研究官井手誠之輔は、情報調整室長に昇任した。

情報資料部主任研究官勝木言一郎は、美術部主任研究官に配置換えとなった。

情報資料部写真資料研究室員津田徹英は、美術部広領域研究室員に配置換えとなった。

情報資料部写真資料研究室員城野誠治は、情報調整室員に配置換えとなった。

美術部オープンレクチャー

第三十五回より公開学術講座の名称をオープンレクチャーと改め、当研究所セミナー室において「日本における外来美術の受容について」のテーマのもと左記のとおり三回にわたって開催した。

十月二十日（土）午後二時～三時半まで

着装する仏像―仏像と人形のあいだ―

十月二十七日（土）午後二時～三時半まで

文化庁 奥 健夫

明治絵画再考―青木繁を中心に
十一月三日（土）午後二時～三時半まで
エドワード・モリスと蜷川式胤―明治初期の美術研究と交流―
鈴木廣之
田中 淳

「日本美術年鑑」の刊行

美術部編集による「日本美術年鑑」平成十二年度版（平成十一年一月～十二月の記事）は平成十三年三月に刊行された。

美術部編集による「日本美術年鑑」平成十三年度版（平成十二年一月～十二月の記事）は平成十四年三月に刊行された。

黒田清輝巡回展

昭和五十二年以来、毎年開催してきた黒田清輝巡回展を、平成十三年度は七月十九日（木）から九月二日（日）まで宮城県美術館で開催した。

研究会

四月 二十五日 光明本尊考 津田 徹英

五月 三十一日 中国における共命鳥の図像について 勝木言一郎

六月 二十五日 黒田清輝「智・感・情」について 山梨絵美子

七月 二十五日 異文化受容と美術 第一回ミニシンポジウム

「鎌倉・南北朝時代における外来美術の受容―宋風の問題を中心に―」

初期水墨画と宋風 島尾 新

宋風彫刻の基本的問題 東京国立博物館 山本 勉

絵画における宋風 文化庁 林 温

鎌倉地方における宋風 津田 徹英

討議 司会 井手誠之輔

十一月 二十一日 黒田清輝「智・感・情」の資料学

黒田清輝「智・感・情」について 山梨絵美子

- 「智・感・情」の調査にもちいた光学的手法について 井手誠之輔
 一月 三十日 クムトラ石窟の現状と美術史的な課題 中野 照男
 二月 二十日 中国壁画研究協議会

「中国壁画の研究」の目的と研究対象

- 北京智化寺の壁画を礼として— 中野 照男
 蛍光X線による壁画顔料のその場分析 早川 泰弘
 敦煌莫高窟・前唐前期窟における佛龕の形状変化と
 それをめぐる問題について 山崎 淑子
 浄土の景観を構成するモチーフとしての鐘樓
 —敦煌壁画の阿弥陀浄土変観経変相を中心に— 勝木言一郎

- 二月 二十七日 陀磨栄賀に関連する十四世紀の絵画について

- パークファウンデーション グレイシャ・ウイリアムス 島尾 新
 珠光筆と伝えられる絵について

- 三月 二十七日 異文化受容と美術 第2回ミニシンポジウム

- 江戸時代後期から幕末・明治初期における
 「漢」と「洋」——南蘋派と洋風画を中心に——

- 司馬江漢の洋風画をめぐって 府中市美術館 金子 信久
 江戸の異国趣味 千葉市美術館 伊藤 紫織
 開成所画学局再考 山梨絵美子
 幕末に人はなぜ絵をみたか 東京大学 ロバート・キャンベル
 討議 司会 鈴木 廣之

国際シンポジウムに向けての研究会

- 第一回 (四月十一日)

国際シンポジウムの開催に向けて

- 第二回〜第五回 (四月十八日、六月十三日、二十日、七月四日)

テーマと内容についてのブリーフストリーミング

- 第六回 (七月十八日)

方向性の決定「モノの移動と価値形成の問題」

第七回〜第一〇回 (七月三十一日、八月十五日、二十三日、九月十二日)

タイトルと内容の確定に向けて

第十一回〜第十三回 (九月二十六日、十月三日、十月十日)

タイトル・趣旨説明の作成「うごくモノ—時間・空間・コンテクスト—」

第十四回〜第十六回 (十月十九日、十一月七日、十一月二十八日)

発表者と構成について

第十七回・第十八回 (十二月十九日、二十六日)

進行状況の報告と様々な問題について